

病害虫情報3月の予報

情報提供：神奈川県農業技術センター病害虫防除部

平成 29 年 2 月 28 日

神奈川県農業共済組合

病害虫情報(第11号)3月予報

平成29年2月28日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 3月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【カンキツ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、春キャベツ】
- II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 7

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成29年2月8日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 3月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【カンキツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
かいよう病 (中晩柑類)	—	○	(予) コサイド3000 [発芽前, -] 1,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍等 (予) ICボルドー66D [-, -] 25~200倍 ◆ ICボルドー66Dを発芽後に使用する場合は、アピオン-E1,000倍を加用する。また、マシン油乳剤との近接散布は避ける。
ミカンハダニ	やや多	○	マシン油乳剤(97%, 98%)等 ◆ 冬期に防除しなかった園は、春期に必ず防除する。 ◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なる。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ウメ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
かいよう病	—	○	(予) Zボルドー [葉芽発芽前まで, -] 500倍 + クレフノン [-, -] 200倍 (予・治) マイコシールド [21日, 4回] 1,500倍等 ◆ 萌芽前はZボルドーを使用し、萌芽後はマイコシールドを使用する。 ◆ 強風雨時に感染するので、降雨前の散布を心掛ける。
灰色かび病	—	○	(予・治) ポリベリン水和剤[30日, 3回] 1,000倍等 ◆ 花びらが散り、萼(がく)が残っている落弁期に防除する。
灰星病	—	○	◆ 灰星病は花から感染し、枯れた枝が翌年の伝染源になる。枯れた枝は萌芽期から新梢展開期が発見しやすいので剪除する。
アブラムシ類	—	○	チェス顆粒水和剤 [21日, 2回] 5,000倍 スミチオン乳剤 [14日, 2回] 1,000~2,000倍等 ◆ PPV(ウメ輪紋ウイルス)の感染が県内の一部の地域で確認されており、新たな感染を防ぐためにはアブラムシ類の防除が重要である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (平成28年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【チャ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
もち病	並	○	(予)ドイツボルドーA [14日,-] 500倍 等 ❖ 前年の多発園では必ず散布する。
チャハマキ チャノコカクモン ハマキ	—	○	ハマキコン-N [成虫発生初期～終期,-] 150～250本/10a 等
カンザワハダニ	やや多	○	【萌芽前】 オマイト乳剤 [14日,2回] 1,500～2,000倍 【萌芽後】 バロックフロアブル [14日,1回] 1,000～3,000倍 等 ❖ 初期防除に重点をおく。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (平成28年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
灰色かび病	やや少	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病: 15g/10a/日										
葉かび病	やや少	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 灰色かび病:1,000～1,500倍										
うどんこ病	—	○	(予・治) ポリオキシシンAL水和剤 灰色かび病、葉かび病 [前日,3回] 1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 灰色かび病、葉かび病:2,000倍、 うどんこ病:2,000～4,000倍 等										
			◆ 受粉の終わった花殻や枯れた葉先は早く除去する。 ◆ 多湿にならないように管理する。										
コナジラミ類 タバココナジラミ	多	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ 1,000～2,000倍										
アザミウマ類	—	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類:300倍 等										
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TYLCV(黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	TYLCV(黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫												
TYLCV(黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													
			◆ 施設内外の除草を徹底する。 ◆ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ポリオキシシンAL(1日)、アニキ(1日)、アフェット(不明)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成28年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	並	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予・治) アリエッティ水和剤 [前日,3回] 400~800倍 (予・治) エトフィンフロアブル [前日,4回] 1000倍 等 ◆ 過湿になると多発する恐れがある。午後は換気に努める。
うどんこ病	並	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治) ガッテン乳剤 [前日,2回] 5,000倍 等 ◆ 乾燥は発生を助長するので、過乾燥に注意する。
アブラムシ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アザミウマ類、アブラムシ類:2,000~4,000倍
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	コナジラミ類:2,000倍 コテツフロアブル
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ: [前日,3回]2,000倍 ボタニガードES [発生初期,-] アザミウマ類:500~1,000倍 コナジラミ類:500倍 アブラムシ類:1,000倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。

発生するウイルス病	媒介する害虫
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類
BPYV(キュウリ黄化病)	
MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
WSMoV(キュウリ灰白色斑紋病(仮称))	

- ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。
- ◆ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

病害虫情報 (平成28年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	やや少	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) ピクシオDF [前日, 4回] 2,000倍 等 ◆ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。
うどんこ病	並	○	(予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) トリフミン水和剤 [前日, 5回] 3,000～5,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 等 ◆ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。 ◆ 窒素過多や草勢低下のときに多発しやすいので、適正な肥培管理を行う。
アブラムシ類	やや多	○	バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍、コナジラミ類: 2,000倍
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ タバココナジラミ	並	○	チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 等
アザミウマ類	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] 5,000倍 カスケード乳剤 [前日, 3回] ミカンキイロアザミウマ: 4,000倍 等
ハダニ類	多	◎	カネマイトフロアブル [前日, 1回] 1,000～1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: スピノエース(2日)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合: 1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合: 1作2回
- ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤の場合: 1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合: 1作2回

病害虫情報 (平成28年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【春キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
灰色かび病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	並 —	○	(予) セイビアーフロアブル20 [3日,3回] 菌核病: 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [14日,3回] 菌核病: 2,000~3,000倍、灰色かび病:3,000倍 等
菌核病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや多 やや多	○	❖ 菌核病は、雨天が多い場合には予防に努め、発病株は早期にほ場で処分する。 ❖ 灰色かび病の発病部位は、見つけ次第除去する。
コナガ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや多 やや多	○	アニキ乳剤 [3日,3回] 1,000~2,000倍 ハチハチ乳剤 [14日,2回] 1,000~2,000倍 フローバックDF [発生初期(但し,前日),-] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成28年度・第11号・3月) ……

神奈川県農業技術センター

II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 3月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部2月16日発表1か月予報)

〈天 気〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	30%	30%	40%
降 水 量	40%	40%	20%
日照時間	20%	40%	40%

(2) 3月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	やや多	1) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(+)
チャ	もち病	少	並	1) 前年10月の発生が平年並であった。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	カンザワハダニ	少	やや多	1) 前年10月の寄生葉率と叩き出し落下虫数はやや多であった。(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(+)
促成トマト	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病が見られず、発生は平年よりやや少ない。(−) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(−)
	葉かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病が見られず、発生が平年よりやや少ない。(−) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(−)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(+)
	タバココナジラミ	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(+)
	ハモグリバエ類	少	やや多	1) 巡回調査では、1月は発生が平年よりやや多く(+)、2月は発生が平年より多い(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(+)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (−):少発要因

病害虫情報

(平成28年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成・半促成キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(－)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年より少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
促成イチゴ	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(－)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年より少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
	ハダニ類	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(平成28年度・第11号・3月)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
春キャベツ (横浜・藤沢地区)	菌核病	少	やや多	1) 秋冬キャベツでの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(－)
	コナガ	少	やや多	1) 横浜のフェロモントラップへの誘殺数は平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)
三浦半島地区野菜				
春キャベツ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(－)
	菌核病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 早春キャベツでの発生は、平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(－)
	コナガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(+) 4) 気温は高く、降水量は平年並か少ない予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+) :多発要因 (－) :少発要因

病害虫発生予察注意報(第2号)

平成29年2月28日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：ハダニ類

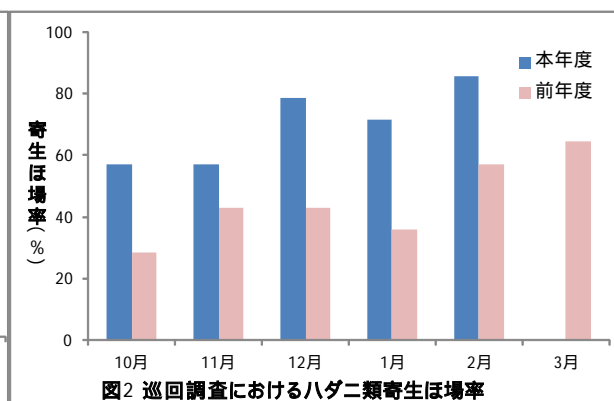
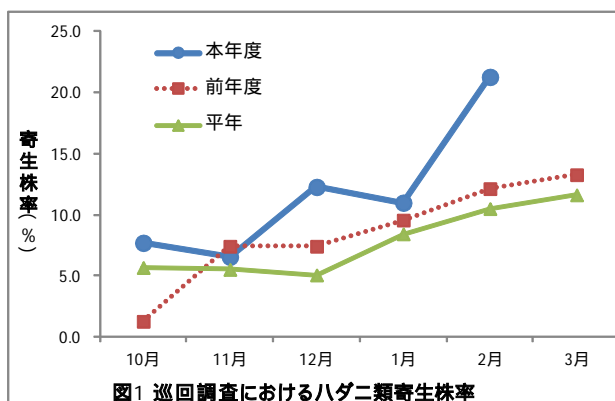
作物名：イチゴ

1 発生地域：県内全域（イチゴ栽培地域）

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- (1) 平成29年2月のイチゴ巡回調査におけるハダニ類の寄生株率は21.3%と平年(10.5%)に比べて高い(図1)。
- (2) 平成29年2月の巡回調査では85%以上の調査地点でハダニ類の寄生が見られ、寄生株率、発生地点ともに1月から2月にかけて増加している(図1,2)。
- (3) 2月16日付け1ヶ月予報(気象庁発表)では、気温は高い傾向でありハダニ類の増殖に好適な条件が続くと考えられる。
- (4) イチゴのハダニ類は例年冬期から春期にかけて増加する傾向が見られるため、今後の増加が予想される。



4 防除対策

- (1) ほ場をこまめに観察し早期発見に努め、ハダニ類が増殖する前に早期に防除する。
- (2) ハダニ類が寄生した葉は、ほ場外に持ち出すとともに、周辺に放置せず適切に処分する。
- (3) ハダニ類は下葉の裏に多く寄生するので、下葉を整理し薬剤が葉裏にも十分にかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 薬剤散布の際は系統の異なる薬剤でローテーション散布を行い、薬剤抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤も活用する。
- (5) すでにハダニ類が多発しているほ場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着ムラなどで効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。
- (6) 天敵カブリダニ剤を放飼する場合は、天敵に影響のない薬剤を散布し、ハダニ類の密度を低下させた後、天敵を導入する。

5 防除薬剤

防除薬剤の例を表に示した。なお、農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する。

表 薬剤例

薬剤名	作用機構 分類(IRAC コード)	天敵に対する影響					
		ミヤコカブリダニ			チリカブリダニ		
		卵	成	残	卵	成	残
コテツフロアブル	13	-	-	7	-	-	-
カネマイトフロアブル	20B			0			0
スターマイトフロアブル	25A	-	-	-	-	-	-
ダニサラバフロアブル	25A	-		-	-	-	-
ダブルフェースフロアブル	25B+21A	-	-	-	-	-	-
バロックフロアブル	10B	x		-	x		-
マイトコーネフロアブル	20D			0			0
コロマイト水和剤	6	-		1	-	-	-
粘着くん液剤	-		-			-	
サフオイル乳剤	-	-	-	-	-	-	-
アカリタッチ乳剤	-			-			0
サンクリスタル乳剤	-	-		0			-

注1) 天敵に対する影響は日本生物防除協議会資料を参考とした。

注2) 卵:卵に対する影響、成:成虫に対する影響、残:その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数。天敵に対する影響は、 :死亡率0~25%、 :25~50%、 :50~75%、x:75~100%、 -:試験データなし、 :散布薬液乾燥後に天敵を導入する場合には影響がないが、天敵が存在する中で散布する場合には影響が出るおそれがある。

注3) 表中の影響の程度及び残効期間は目安であり、気象条件により変化する。

注4) カネマイトフロアブルは新葉の葉裏に薬害を生じることがある。

神奈川県農業技術センター
 病虫害防除部
 〒259-1204 平塚市上吉沢1617
 TEL 0463-58-0333
 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>